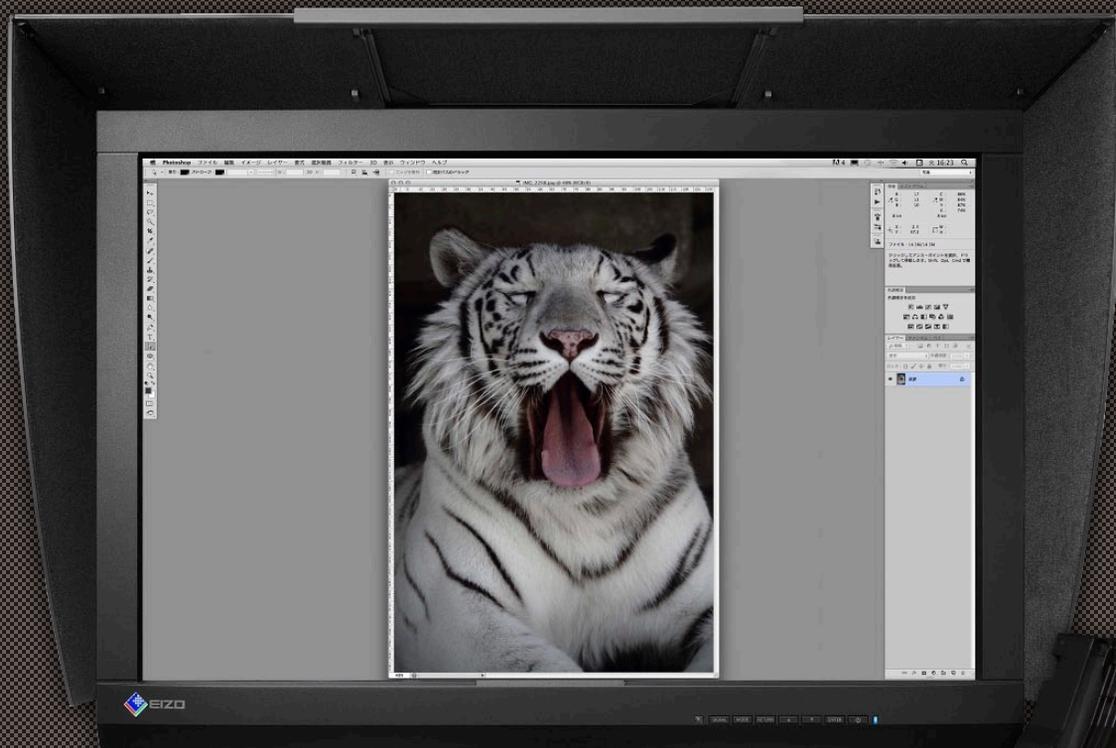


モニターに着目すれば写真が上達する!?

EIZO ColorEdgeで目指す 妥協なき「作品制作」



写真用カラーマネジメント モニターを使えば...

モニターと
プリントの
色が一致

作業時間の
短縮

印刷コスト
(ペーパー代・インク代)
の削減



EIZO Presents プロカメラマンの画像処理現場

「モニター」を意識すれば 「作品力」もアップします!!

カメラボディやレンズ、そしてプリンターと比べ、いまひとつ地味な存在が「モニター」です。しかし近年、入力(撮影)の厳密な確認からレタッチ、そして正しい出力(プリント)を得るためのツールとして、「写真確認用モニター」が注目を浴びています。そこで写真家・諏訪光二氏に、モニターの重要性について語っていただきました。



諏訪光二
Kohji Suwa

自然写真家。広告・雑誌での執筆、作品掲載多数。デジタル黎明期から撮影機材のみならずPC等の周辺機器にも精通し、写真教室、撮影セミナー等の講師も多く務める。

■絞り優先AE(F5.6 1/60秒) ISO100 RAW

ブラウン管時代から「モニター」へのこだわり

「私のモニターへのこだわりは、旧ナオのブラウン管時代から始まり今日に至ります」と語るのは、写真家・諏訪光二氏。月刊カメラマンをはじめとするカメラ誌などで活動する傍ら、積極的に作品を発表し続けている。今回、氏が積極的にEIZOのモニターを使い続ける理由などを訊いてみた。

「ブラウン管時代、色ムラがなく、キャリブレーションを正確にできるモニターはナオオしかありませんでした。液晶モニターとなった今でも、**デジタルユニフォミティ補正回路**の搭載により、明るさや色味の均一性が高く安心して画像を確認、閲覧することができます」とのこと。さらに色域の広さもEIZOのモ



諏訪氏の作業机に並ぶ3台のColorEdge。右よりColorEdge CG275W、ColorEdge CG243W、ColorEdge CG242W。少なくとも2週間に1回はすべてキャリブレーションを行って作業に臨むとのこと。

ニターを長く使い続けている理由だ。**2週間毎のキャリブレーションがデフォルト**

「Adobe RGB色域の再現に関しても、いち早く対応したのはナオでした。それは今日まで続いている」という。そのようなことの積み重ねにより諏訪氏のEIZOに対する信頼はますます厚いものになっている。

現在、氏の広いデスクの上にはColor Edge CG275W、ColorEdge CG243W、ColorEdge CG242W(いずれも生産終了製品)の3台のEIZOモニターが並ぶ。

「EIZOモニターは伝統的に**ハードウェアキャリブレーション**を採用していますが、安定性はソフトウェアキャリブレーションの比ではないですし、とても正確。しかもEIZOのキャリブレーションソフト**ColorNavigator 6**は信頼性が高く使いやすい」と話す。また、印刷用とWeb用でカラー環境を切り替えることも多いが、ColorNavigator6ならワンタッチで変えられ「重宝している」という。ちなみに、「カラーマッチング(キャリブレーション)は基本的に2週間に1回、大事な作業の前にはその都度必ず行う」のが諏訪流だ。

ノートPCとのドッキングも有効

諏訪氏はモニターの電源を入れた後30分ほどは画像に関する作業は行わないようにしている。もちろんこれは表示を安定させるためであるが、最新機種であるColorEdge CG247とColorEdge CX241は**起動してから7分**

ほどで安定することに対しては、「期待しているが、カメラマンはひと息つく暇もなくなるかも」と笑う。

長時間モニターに向かうことが多いせいか、**FlexStand**の存在もありがたく感じている。

「モニターの位置によっては指や腕に不要な力が入ってしまい肩こり、頭痛の要因となることがあります。その点EIZOのモニターは最適な高さ、角度に設置できるため、そのようなことはないですね」

様々な写真のセミナーで講師としても活躍する諏訪氏だが、生徒たちには常日頃モニターの重要性を話している。

「作品を作るにあたってモニターはとても大切です。作品力を高めたいのであれば、少なくともPCの「オマケ」で付属してきたようなモニターとは手を切るべきだと思います。そして正確にキャリブレーションができるモニターであれば、より表現の幅は広がるのです。テストプリントの際の「無駄打ち」が減れば、時間もコストも確実に軽減されるでしょう。」

また、ノートPCで画像を閲覧、編集する方も多いかと思いますが、そのような場合にはケーブル一本で**EIZOのモニターが繋げられる**のです。屋外ではノートPCの機動性を活かしつつ、自宅では正確な色再現で作業できる。こうした使い方も検討してみる価値は十分あります」とのことだ。

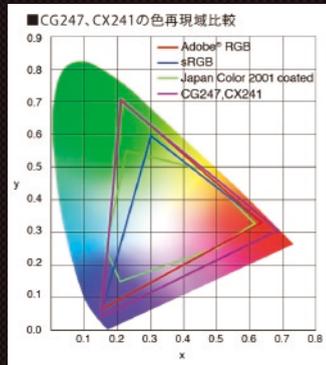
用語解説は次ページにて!

モニターへの理解度を深めるための「用語解説」

ここでは、先の諏訪氏のインタビューで出てきた用語を中心に、EIZOモニターの特徴を探ってみよう。

Adobe RGB

昨今のデジタルカメラで撮影できる色域のひとつ。汎用性のあるsRGBの色域をはるかに凌ぐ広さを持つことから、作品制作や広告等で用いられることが多い。当然モニターにも高度な再現性が要求されるのだが、EIZOのカラーマネジメントモニター（CS230を除く）ではほぼカバーしており、正しい色を参照しながら編集、レタッチ作業を行うことができる。ちなみに最新型となる「ColorEdge CG247」および「ColorEdge CX241」ではAdobe RGBカバー率99%を実現。



sRGBにくらべより広い色域を持つAdobe RGB。ColorEdge CG247およびColorEdge CX241ともそのカバー率は99%を達成しており、いわゆる「おまけモニター」との違いはひと目で分かる。

ハードウェア・キャリブレーション

ColorEdgeシリーズの採用するハードウェア・キャリブレーションとは、モニターの内部回路の設定のみを調整して色表示を補正する方法。パソコンからの出力信号を調整するソフトウェア・キャリブレーションとは異なり、表示階調が犠牲になるようなことがなく、階調の減少による階調とびや色つきを防ぐ。

短時間でキャリブレーション作業が済むのも特徴だ。「ColorEdge CG247」および「ColorEdge CX241」には専用のキャリブレーション・ソフトウェア「ColorNavigator 6」が同梱される。



ColorEdge CX241は外付けタイプのキャリブレーションセンサーを使い、キャリブレーションを行う。EIZOでは、キャリブレーションセンサーとして「専用センサーEX2」の付属する「ColorEdge CX241-CN」も用意している。

専用の調整ソフトウェア

「ColorNavigator 6」は、EIZOが独自で開発したColorEdge専用カラーマネジメントソフトウェア。パソコンの出力信号を触らずに、直接モニターの表示を調整するハードウェア・キャリブレーションを行う。階調を犠牲にすることなく、ColorEdgeの性能を活かした精度の高い調整を可能にするとともに、操作が簡単で、作業結果に個人差が生じにくいことで、常に正確なキャリブレーションを短時間で行うことができる。

「ColorEdge CG247」および「ColorEdge CX241」の-CNX、-CNモデルに同梱されているほか、EIZOホームページよりダウンロードが可能だ。



EIZO製品の評価をさらに高めているのが、この「ColorNavigator」の存在だ。ついにバージョンも6となった。

7分で安定表示

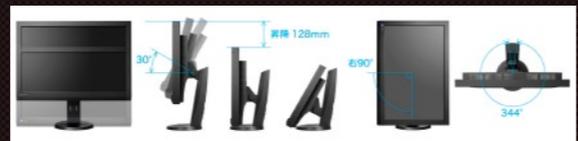
一般的なモニターは表示が安定するまで起動後数十分を要することも多いが、ColorEdge（CS230を除く）は輝度だけでなく色度、階調特性も含め7分ほどで安定するように設計されている。

撮影から帰ってきてすぐに信頼できる表示で作業が行えるほか、スタジオでの確認用モニターとして使う場合にもすぐに撮影を始めることができ、作業効率アップにもつながる。

FlexStand

EIZOのモニターにはディスプレイの昇降・チルト・回転の可動範囲が広いFlexStandが搭載されている。最新の「ColorEdge CG247」および「ColorEdge CX241」の場合では、ディスプレイの最大昇降128mm、チルトは上方向30°、左右は各172°回転する。さらにディスプレイを縦位置にすることも可能としている。

目や肩への負担を軽減するためにも正しい角度でモニターをセットしておきたい。

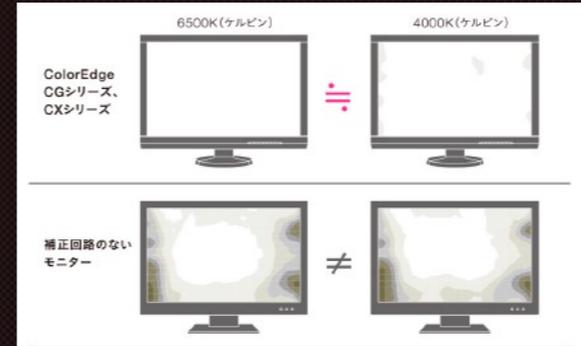


長時間の作業による疲れの軽減、さらに作業効率をアップさせるためにも、モニターのスタンドにもこだわりたい。

デジタルユニフォミティ補正回路

デジタルユニフォミティ補正回路は、ディスプレイ全域の輝度（明るさ）と色度のムラを低減し均一性を高める機能で、ColorEdgeに搭載されている。この回路は、画面全体、全階調にわたって輝度および色度の不均一な部分に補正をかけることにより、表示の均一性を図るものである。

ちなみにColorEdge（CS230を除く）には、工場出荷時にディスプレイの輝度、色度を測定したΔE値や測定環境、測定ポイントを記載した調整データシートが製品に同梱される。



デジタルユニフォミティ補正回路により画面のムラのようなものは皆無だ。モニターのどの位置で画像を見ても、濃度などの違いはない。

ノートパソコンにつなぐ

手持ちのノートパソコンとEIZOのモニターを直接接続できる。CG247、CX241にはMacノートPC接続に使えるDisplayPort～Mini DisplayPortケーブルを同梱。ノートPCのモニターの中にはsRGBの色域をフルにカバーするものが少ないうえに、色調も偏っている場合が多いのが実情。

モニターを別途用意するだけで精度の高い作業が楽しめるし、加えてカメラやレンズの正しい描写の評価も可能になるのだ。



ノートPCのモニターはあくまで画像確認用。プリントを前提にした色評価には向いていない、ということを理解しよう。

IPSパネル

「ColorEdge CG247」および「ColorEdge CX241」では、見る角度や位置によって色合いやコントラスト、階調特性の変化が少ないIPSディスプレイを採用する。多方向から複数人でモニター画面を見るときも視野角による白浮きや色の变化のようなものがなく、イメージを共有できる。

セルフキャリブレーション

「ColorEdge CG247」では専用のキャリブレーションセンサーをモニターのベゼルに内蔵する。センサーはキャリブレーション時のみ自動で現れ、ユーザーがその都度センサーの取付け、取外しを行う手間もいらない。

さらに、モニターが定期的に白色点、輝度、色域の再調整を実施する「セルフキャリブレーション」機能を搭載。なお「ColorEdge CX241」ではコレクションセンサーをモニターベゼルに内蔵。こちらは白色点と輝度の補正を定期的に行うことができる。CG247もCX241もユーザーが不在でも自動で行うため、手間要らずかつ、実施のし忘れを防ぐ。



ColorEdge CG247はキャリブレーションセンサーを内蔵し、通常のキャリブレーションのほか、自動的にキャリブレーションを行う。コレクションセンサーを内蔵するColorEdge CX241でも定期的に補正を行う。

遮光フード

内面に植毛処理が施され、蛍光灯の映り込みなど外光反射を効果的に防ぐ。「ColorEdge CG247」には同梱される。遮光フードの上部がスライドするため、外付けのキャリブレーションセンサーの使用も容易とするほか、ディスプレイの縦回転時にも取付けを可能とする。「ColorEdge CX241」には別売りのオプションとして用意されている。



ColorEdge CG247には遮光フードが付属。外光反射を効果的に抑え画像をより鮮明に再現する。ColorEdge CX241は別売りのオプションとして用意されている。

遮光フードはモニターを縦位置としたときにも対応する。ポートレートの撮影が多いユーザーにはうれしい配慮だ。



画面のざらつきが少なく、角度によって白浮きや色変化しにくいIPSパネルを採用。視野角も広く、複数人で画像を確認するときなども便利。

それでは、この春に発売されたばかりのEIZOの新製品を紹介します。すでにColorEdgeに触れたことのある方はもちろん、これから「モニターデビュー」を飾りたい皆さんにもオススメできる、強力な2モデルです!

ColorEdge CX241



■価格: 12万3000円(CX241-CN)
11万8000円(CX241-CN) 11万3000円(CX241)
※EIZOダイレクト販売価格(税込)

到着即キャリブレーション。 すぐに性能を満喫できる!

筆者は写真用として2台のColorEdgeを使用している。これらは画像データに忠実な色再現を約束してくれる良き相棒だ。しかし、そろそろ買い替えを考える時期にきている。そこで今回、EIZOの新しいモニターを試用する機会を得たので、その詳細を報告したい。

「ColorEdge CX241」は、24.1インチディスプレイを採用するモニター。ディスプレイはIPSパネルで、視野角が広く、見る角度による階調や色合いなどの変化も少ない。撮影した画像をスタッフ全員で閲覧するときなどには重宝しそうだ。

表示できる色域はAdobe RGBカバー率99%を達成。このパフォーマンスは圧倒的といってよい。ノートPCや、いわゆるPCとセットで買ったモニターと比べればその差は歴然。加えて輝度と色度のムラがないことにも気づくはずだ。

キャリブレーションについては上位モデルのCGシリーズ同様のキャリブレ

ColorEdge CG247



■価格: 17万4800円
※EIZOダイレクト販売価格(税込)



キャリブレーション中のColorEdge CX241。キャリブレーションにかかる時間はわずか1~2分ほど。当然、ハードウェア・キャリブレーションだ。

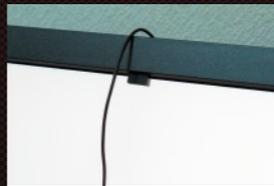
ションソフト「ColorNavigator 6」を使用。もちろんハードウェア・キャリブレーションだ。操作はウイザードに従うだけなので、ごく短時間で完了する。

ちなみに、今回手もとに届いたColorEdge CX241は機種名の末尾に「CNX」と付くもので、キャリブレーションセンサーが付属。手もとに届いてすぐにキャリブレーションを始めることができるので、初めてモニターを購入するひとにオススメだ。なお、モニター単体のColorEdge CX241-CNもラインナップしているの、すでにセンサーを所有しているならそちらを購入するとよいだろう。

筆者がもっとも感心したのは「コレクションセンサー」を内蔵していることである。これはキャリブレーション後の調整結果をセンサーに記憶させることで、白色点と輝度を調整結果に沿って定期的かつ自動で補正を行うもの。調整タイミングは経過時間で設定でき、たとえPCの電源がOFFになっていても補正は行われるので、常に正しい表示を維持できる。筆者のようなナマケ者



キャリブレーションが終了すると、調整結果が表示される。調整結果には目標値と結果値のほか、調整日時やモニター使用時間、測定器(センサー)なども表示される。



ColorEdge CX241はキャリブレーション終了間際に上部中央のモニターベゼルからコレクションセンサーが出てきて白色点と輝度の調整結果を記憶する。



購入した個体の輝度(明るさ)と色度のムラを知ることができるユニフォシティ出荷データシート。このようなシートを同梱するのも、EIZOのモニターに対する自信の表れだ。

にとってこれほど気の利いたモニターはないように思える。短い試用期間ではあったが、その魅力は十分すぎるものであった。

キャリブレーションセンサー 内蔵のプロ仕様機

「ColorEdge CG247」は、CXシリーズの上位機種となる、プロ仕様のハードウェア・キャリブレーション対応液晶モニター。モニターサイズや解像度はCX241に準ずるが、遮光フードを同梱している。

CGシリーズの最大の特徴はキャリブレーションセンサーを内蔵していること。これにより、作業中不在時やパソコンの電源がオフの状態でも定期的にキャリブレーションを実施することができる。一切の妥協を廃した「ハイエンド」に位置するカラーマネージメントモニターと言えるだろう。

百聞は一見にしかず。モニターに関する疑問は、実際に見て、触って、体験してみるのが一番。銀座の一等地にてEIZOモニターをイジリ倒してみよう!

EIZO ガレリア銀座

東京都中央区銀座7丁目3番7号 プランエスパ銀座ビル3階 TEL: 03-5537-6675



こちらはColorEdge CG247をはじめとするColorEdge CGシリーズの並ぶ陳列台。



白を基調とするショールームの照明は、色評価用の蛍光灯を使用している。そんなこだわりもすべてEIZOらしいところ。



セミナールームの様子。定常セミナーはビギナーを対象とした小人数制ワークショップ。詳細はホームページを見て欲しい。



ColorEdge CXシリーズが並ぶ。最新のColorEdge CX241も展示されている。



多くのプロ写真家やカメラマンから慕われているEIZO ガレリア銀座カラーマネージメントエキスパートの山口省一さん。

モニターの生き字引が いらっしやいます。

白を基調とした落ち着いた感じのショールーム中央にはEIZOのモニターがずらりと並ぶ。「EIZO ガレリア銀座」は、その名の通りEIZO製品のショールームだ。

「このショールームはこの1月に移転オープンいたしました。EIZO製品の展示のほかセミナーや写真展を店内で開催しております」と語ってくれたのは、EIZO ガレリア銀座・カラーマネージメントエキスパートの山口省一さん。

実は、山口さんはこの世界ではよく知られた方で、その豊富な知識や経験から多くの写真家からモニターに関するよき相談相手となっている。ショールームには山口さんのほかにもモニターに関する知識の豊富なスタッフが常に待機しているので「不明な点は遠慮

しないで訊いてほしい」とのことだ。「ショールームの照明はセミナールームなども含め、色評価用の蛍光灯を使用しております」。

ちなみに自分の撮影した画像データを持ち寄って、展示してあるモニターで確認することも可能とのこと。

セミナーは参加者用のデスクが4つ並ぶ比較的小ぢんまりとしたもの。定常のセミナーは現在のところ1コースのみで、モニターのキャリブレーションからプリントまでレクチャーを行っている。そのことについて山口さんは次のように語る。

「モニターだけで完結する場合はモニターの色が正しいか否かを実感することは少ない。そのデータをプリントして初めてモニターの正確さが求められる。いわゆるカラーマネージメントの考え方で、正しくキャリブレーションされたモ

ニターならば、プリンターで出力した色もほぼ同じと考えていいのです」

モニターのメーカーだからモニターだけ解説するのではなく、プリントまで行うことでカラーマネージメントそのものを理解してもらおうとする姿勢にはたいへん共感できるものである。プリンターはキヤノンおよびエプソンのA3ノビタイプのものが用意されているので、どちらのユーザーが参加しても安心だろう。なお、セミナーは無料で、事前に予約が必要ということだ。

我々写真愛好家にとってモニターは、カメラやレンズに比べ、プライオリティはどちらかといえば低い。しかしながら撮影した画像やそのカメラの描写の評価は、よいモニターがあつてはじめて成り立つもの。よりよい写真ライフのために、これまで以上にモニターに着目してみてもどうだろうか。